

第 146 回東葛しぜん観察会

春うららの利根運河

遠藤 真弘（柏市）

日 時：2018年4月7日（土）9時30分～12時 天候：曇り

場 所：利根運河（流山市）

参加者：大人 15名、指導員 18名

担当指導員：鈴木(俊)、西池、遠藤(真)

利根運河は、東武線の運河駅から歩いてすぐのところにあります。明治時代に銚子から東京まで船で米穀などを運ぶため利根川と江戸川とを結ぶ運河として建設され、輸送時間が大幅に短縮されました。その後鉄道や道路の普及により使われなくなりました。現在も水が流れおり豊かな自然環境と生態系が育まれています。昨年の利根運河の観察会は雨で中止となっていましたが、今回は無事開催できました。

利根運河に沿って土手を歩きました。土手には桜並木があり毎年多くの花見客でにぎわいます。今年は開花が早くて1週間前の下見の時に満開となり、観察会の時にはほぼ花は散ってしまいましたが、それ以外にも春の訪れを感じるものがたくさんありました。

土手一面に咲く菜の花。おもしろいことに1か月前に見た時には南を向いた土手（観察ルートの向かい側）にしか咲いていなかったのですが、今回はほぼこちら側の北を向いた土手だけに咲いていました。開花が1か月ずれているのです。近くで観察してみると、セイヨウアブラナが多く、セイヨウカラシナはほとんど見られませんでした。

土手沿いに歩いていくと、大きなクヌギの木がありました。すでに開花していましたが、ピンク色がかかった不思議な花？を発見！実はこれ、クヌギハナカイメンフシという虫こぶで、中に虫が入ってるんですよ と説明すると、きれい！と言って触ろうとする人と、気持ち悪い！と言って逃げようとする人がいて、思わず爆笑てしまいました。

今回は身近な野草にも注目。土手やその付近にはオオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、フラサバソウが開花しており、ある場所では白いコゴメイヌノフグリの花を観察しました。次にたくさんのカラスノエンドウに交じって、白い小さな花を咲かせるスズメノエンドウをみんなで探し、どこが違うかを比べてみました。土手からは運河の流れに沿って水面すれすれに飛ぶカワセミの姿がなんども見られ、参加者から歓声があがっていました。土手を少し離れた林に入るとコゲラの鳴き声が聞こえました。近くの樹木にコゲラが空けたらしい穴を観察しました。その先には、大きなホオノキがあり、下見では大きな冬芽だったのですが、ちょうど芽吹き始めたところでした。細い緑葉と赤みを帯びた托葉が混じった新芽は、あたかも花が咲いているようでとても美しく印象的でした。そのホオノキの下には、春に一瞬の輝きを見せるスプリング・エフェメラルとして知られるアマナの花が咲いていました。少し目立たないところにあるのですが、そんな場所にも確かに春の訪れが感じられました。

参加者からは、身近な雑草でもじっくり観察してみるといろいろ勉強になることがあった、途中で観察したルリハムシが印象深かった、などの感想が聞かれました。

